

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Obstacle avoidance movement-related motor cortical activity with cognitive task. 《筆頭論文》	共著	2021年11月	Exp Brain Res 240: 421-428	論文全体の概要:認知課題を付加して障害物回避を実施する間の運動関連脳電位を脳波で記録した。障害物へ接触回数は、認知課題を実施しない時と差がなかったが、対象者は障害物と離れた位置から足を上げはじめ、そのための準備と実行に関連する運動皮質活動は減少した。 (総ページ数:8頁) ( <u>Matsuura A</u> , Sai N, Yamaoka A, Karita T, Mori F)
2 (学術論文) 脳損傷後運動障害における 運動野の機能再編. 《筆頭論文》	共著	2020年3月	理学療法の臨床と 研究 29:17-21	論文全体の概要:脳卒中後の運動機能回復に関連する皮質脊髄路の興奮性とその後皮質内、皮質間ネットワークの活性、非損傷側皮質脊髄路の過活動性および網様体脊髄路の機能的再編について概説した。 (総ページ数:5頁) ( <u>松浦晃宏</u> , 荻田哲也, 森大志)
3 (学術論文) Mirror movement-like muscle hypertonia stroke model based on ipsilateral weight load. 《筆頭論文》	共著	2019年12月	NeuroReport 31, pp.251-255	論文全体の概要:一側肢が高緊張状態にある場合の対側肢運動機能への影響について、健常成人を対象に運動誘発電位と運動機能を調べた。脳卒中片麻痺患者の非麻痺側肢の過剰使用や高い筋緊張の持続した状態が、麻痺側の運動機能回復を阻害する可能性が示された。 (総ページ数:5頁) ( <u>Matsuura A</u> , Karita T, Nakaso N, Kondo Y, Mori F)
4 (学術論文) Correlation between changes of contralesional cortical activity and motor function recovery in patients with hemiparetic stroke. 《筆頭論文》	共著	2017年10月	Phys Ther Res 20,pp.28-35	論文全体の概要:脳卒中片麻痺患者において、経頭蓋磁気刺激による非損傷側の皮質興奮性変化と上肢運動機能回復の関連を調べた。その結果、非損傷側皮質脊髄路の活動減少が麻痺側上肢の運動機能と関連することが示された。 (総ページ数:8頁) ( <u>Matsuura A</u> , Karita T, Nakada N, Fukushima S, Mori F)
5 (学術論文) Time course of changes in corticospinal excitability after short-term forearm/hand immobilization.	共著	2017年11月	NeuroReport 28, pp.1092-1096	論文全体の概要:24時間の前腕固定をした際の皮質脊髄路興奮性の経時変化を経頭蓋磁気刺激により測定した。その結果、短時間の前腕固定は皮質興奮性を急速に減少させ、この変化は運動再開後に急速に逆転することを示した。 (総ページ数:5頁) (Karita T, <u>Matsuura A</u> , Kondo Y, Tomimura K, Nakada N, Mori F)
6 (学術論文) Magnetic stimulation and movement-related cortical activity for acute stroke with hemiparesis. 《筆頭論文》	共著	2015年12月	Eur J Neurol 22, pp.1526-1532	論文全体の概要:急性期皮質下脳梗塞への反復経頭蓋磁気刺激の効果を手の運動に関連する脳波により検討した。非損傷側半球への低頻度刺激は損傷側半球の運動野と運動前野ニューロンの興奮性を増加させ、麻痺手の運動機能を改善させることができることが示された。 (総ページ数:7頁) ( <u>Matsuura A</u> , Oguro H, Onoda K, Yamaguchi S)